

次号課題 「切磋」

今月の課題は論語の学而編の「子貢曰 詩云 如切如磋 如琢如磨 其斯之謂与」から転借した「切磋」とする。

訓読は「子貢曰く詩に云う 切するが如く磋するが如く 琢するが如く磨するが如し 其れ斯の謂いなるか」で、意味は「詩経に骨や角に細工をするものが、すでに切つて形を成したものにさらに磨きをかけ、石や玉に細工をするものがすでに形を為したものをさらに磨くと詠じていますが、そういうことですか」といったところか。

四字熟語の「切磋琢磨」の故事である。



参考作品

優秀作品



- 出品資格特に制限なし。
- 印（印影）の大きさは3センチ以内（形は自由。楕円・長方形等も可）。
- 印影を白の半紙1/4に押印し、右側に条幅出品券を貼付。
- 課題文字以外の随意作品も出品可。消しゴム印も可。

次号課題

心許なき日かず重るまゝに、白川の関にかゝりて旅心定りぬ。「いかで都へ」と便求めしも断也。中にも此関は三関の二にして、風驟の人心をとゞむ。

松尾芭蕉「奥の細道」

優秀作品

月日は百代の過客にして、行かふ年も又旅人也。舟の上に生涯をうかべ、馬の口とらへて老をむかふる物は、日々旅にして、旅を栖とす。

澤田 桃 翠

月日は百代の過客にして、行かふ年も又旅人也。舟の上に生涯をうかべ、馬の口とらへて老をむかふる物は、日々旅にして、旅を栖とす。

蜷川 麗 耀

月日は百代の過客にして、行かふ年も又旅人也。舟の上に生涯をうかべ、馬の口とらへて老をむかふる物は、日々旅にして、旅を栖とす。

井野 口聡 司

月日は百代の過客にして、行かふ年も又旅人也。舟の上に生涯をうかべ、馬の口とらへて老をむかふる物は、日々旅にして、旅を栖とす。

横田 早 紀

月日は百代の過客にして、行かふ年も又旅人也。舟の上に生涯をうかべ、馬の口とらへて老をむかふる物は、日々旅にして、旅を栖とす。

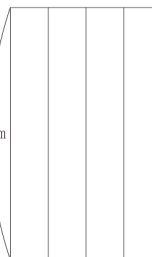
伊 井 翠 風

月日は百代の過客にして、行かふ年も又旅人也。舟の上に生涯をうかべ、馬の口とらへて老をむかふる物は、日々旅にして、旅を栖とす。

石川 雄 雲

月日は百代の過客にして、行かふ年も又旅人也。舟の上に生涯をうかべ、馬の口とらへて老をむかふる物は、日々旅にして、旅を栖とす。

松 崎 洸 翠



- 出品資格：一般10級～師範。
- B5の用紙に縦書で四行に書くこと。（文字送りは自由）（行書、草書がまじってもよい。ただし漢字、ひらかなの変換は不可）
- 作品右下に条幅作品出品券を貼付。

※予告（六月号）は52ページに掲載

※用紙は検定試験の（口）の使用も可。

